



地域包括ケア支援システム トリニティケアクラウド

信州大学 医学部附属病院 難病診療センター 様

信州大学医学部附属病院難病診療センターは、長野県難病医療提供体制整備事業の拠点として指定されています。

信州大学医学部附属病院難病診療センターは、長野県難病医療提供体制整備事業の拠点として県内の医療機関等による難病医療提供体制の整備と難病患者の安定した療養生活の確保を図る役割を担っています。今回はセンターの日根野 晃代 先生（脳神経内科医）に導入のきっかけや、導入後の効果についてお話を伺いました。

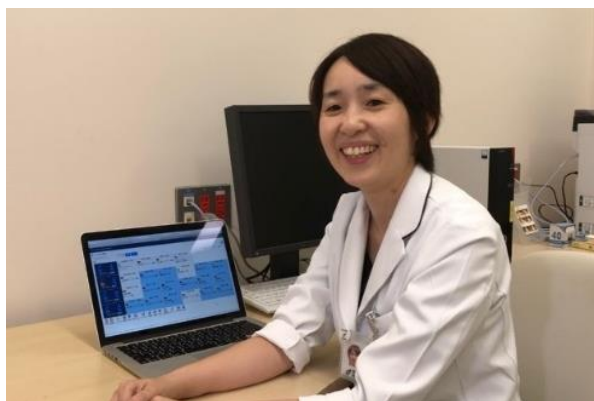
日根野先生は、日本難病医療ネットワーク学会学術集会において、演題「在宅難病患者に対する情報共有システムを用いたオンライン診療の試み（2019）」で最優秀口演賞を受賞、さらに翌年の演題「オンライン会議機能を含む患者情報共有システムの難病相談支援センター業務への応用（2020）」でも優秀演題賞を受賞されています。

トリニティケアクラウド導入のきっかけ

中村昭則先生（国立病院機構まつもと医療センター臨床研究部長・脳神経内科部長・神経難病センター長、信州大学医学部医学科内科学第三 特任教授）とキッセイコムテック株式会社の共同研究で行われていた在宅難病患者の情報共有システムの実証実験に訪問診療医として参加したことがきっかけです。在宅難病患者の多職種チームケアでは、患者の日常の生活状況や家族の不安を、タイミングよく情報共有することがとても重要です。これを実現する仕組みとして「患者本人・家族も参加できる」、「施設・業種を問わず参加できる」、「端末の種類を問わず利用できる」等が決め手となり、導入に至りました。

トリニティケアクラウド導入後の効果

患者の日常の生活状況や家族が不安に思っていることをメッセージ形式で知ることができ、通常の診療に役立っています。今までは診療中に確認する時間が必要でしたが、それらの情報を診療前に把握することができるため、診察の効率化にもつながっています。また、関係者間の情報交換でも活用でき、普段なかなか交流できない他業種の方とも良好な関係を築くことができました。さらに、オンライン会議機能を、オンライン診療や退院時の関係者会議に利用しています。特に、コロナの影響で他施設の方との対面での会議が困難な状況の中で、関係者会議のオンライン化は



日根野 晃代 先生（脳神経内科医）

多くの方が参加できるツールとなり、助かりました。なかなか時間が取れず、直接来ていただくことのできなかった他の医療機関の医師にも、自身のクリニックからオンラインで参加いただけることもあり、ありがたい機能でした。

今後のトリニティケアクラウドへの期待

患者や家族の支援ツールとして活用する中で、医療者側の負担が大きくなるのではとの意見もよく聞きますが、実際に使用していると、状況をこまめに把握できたほうが診療の効率化につながり、負担には感じません。是非、多くの方々に広がり、様々な活用ができるよう期待しています。

-日根野先生、貴重なご意見・ご感想、誠にありがとうございました。（取材：2021年3月）

キッセイコムテック株式会社

〒390-1293 長野県松本市和田 4010-10
☎ 0263-40-1122(代) FAX 0263-48-1284
✉ trinity-care@comtec.kicnet.co.jp



トリニティケアクラウドの紹介ページにアクセスできます！